

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo.betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

報恩講の加勢で別院に足を運んだ時、伽藍を凝望すると、その大きさに改めて圧倒された。まずは、どこまでも広く高い大屋根の姿が見事だ。およそ八〇〇人以上の参詣者を受け入れる大きな参詣の間、奥行きも高さも充分にある広い御内陣、お荘厳の仏具も自坊のその物とは比べ物にならない程大きく立派だ。その中心には大きなご本尊阿弥陀如来が安置されている。我が宗派の阿弥陀如来は立像だ。然し、ただ御立ちになられている訳でなく、少し前のめりに立たれている。住立空中されていると言われている。別院の阿弥陀様はこの胡乱な現代社会情勢を、そして、私自身をどのような思いで俯瞰されているのだろうか、ふと不遜ながら慮ってみる。

別院がこの三條の地に建立されたのは、元禄時代、一如上人の頃と聞いている。小児往生の問題で越後の地で異議論争が起こり、その後「宗義安心を取り締まる目的」で創設されたようだ。「取り締まる目的」と言われると何やら心穏やかではいらぬようだ、小児の往生一つの問題が異議論争を起し、宗門をも揺るがす事となり、ひいては一坊を築くまでの大問題に発展するなんて話は、民衆の寺離れが加速度的に進ん

でいる現代を生きる私には想像すらつかない異界のお話に思えてしまう。

今の伽藍は明治時代に再建された物だが、古人の信心に思いを馳せ心静かに自身の生き様を顧みる場としてはあまりある立派な伽藍だ。この度、親鸞聖人の七百五十回御遠忌を縁に改修される事となった。先日、ご本尊の動座式も無事に終わり、いよいよ工事も始まった様である。一年後にはピッカピカに仕上がって、前にもまして立派な素晴らしい伽藍を観ることができよう。

そんなピカピカになる伽藍を一如上人始め、有縁の諸仏の方々も御浄土で御喜びだと思いが、同時にこの時代においてその伽藍を私達がどう生かすのか、厳しい視線が注がれている事も忘れてはならない。

古の行者の声なき声にうなされる日々が当分続きそう。

(第十二組 安浄寺 安原陽二氏)

○次回の「三條別院に想う」は、

服部 敏男氏 (第十組 光圓寺門徒) より

ご執筆いただきます

春彼岸会のご案内

春彼岸会を左記の通り厳修いたします。有縁の方々をお誘いあわせの上、是非ご参詣下さい。

◇期 日 三月二十二日(土)～二十四日(月)
◇日程および法話講師

二十二日(土)

午前十時～東日本大震災復興支援写真展
&チャリティーバザー

午後一時三十分より速夜法要

法話 鍋嶋 征氏 (第十五組 通惠寺)

二十三日(日) 午前十時より永代経総経

法話 村山 教二氏

(真宗史研究者 第十一組願興寺衆徒)

～三條別院の歴史に聞く～

おとき (正午)

午後一時三十分より速夜法要

法話 ひき続き 村山 教二氏

二十四日(月) 午前十時より日中法要

法話 鷲尾幸雄 (三條別院輪番)

① 二十一日午前十時～午後四時まで、東日本大震災復興支援写真展・チャリティーバザーを開催いたします。

② 二十二日に二〇一五年厳修の親鸞聖人七五〇回御遠忌法要を機に、三條別院とそれを支えてきた人々の歴史に改めて学びたい趣旨で、村山氏に法話をいただきます。

③ 二十三日の正午に、おときを賞加金千円にて、ご用意いたしますので、ご希望の方は三月十七日(月)までに当別院までご連絡下さい。

■チャリティーバザー物品・支援活動写真募集

既にご案内の通り、春彼岸会のチャリティーバザーに提供いただける物品を募集しております。

◇物品 乾麺、缶詰、お茶、海苔、保存がきく

食品、食器、タオル、シーツ等

◇支援活動写真・動画

※三月十六日(日)までに当別院までお届けください。また、お届けいただくのが困難な方、上記以外の物品のご提供にしましては当別院までご相談ください。

■別院子ども奉仕団IN木揚場教会

三条別院ではお釈迦様の誕生日(四月八日花まつり)、親鸞聖人の誕生日(四月一日)にあわせて、子ども奉仕団・お誕生法要を毎年開催させていたしております。締切間近ですのでお早めにお申し込みください。

◇開催日 四月二日(水)～三日(木)

◇対象 小学校新三年生～六年生

※現在小学二年生～五年生の方

◇会場 木揚場教会(新潟市中央区礎町)

◇集合場所 三条別院(現地集合も可)

◇締切 三月十日(月)必着

◇定員 四十名

(内、十名東日本大震災被災地からの招待)

詳細は案内チラシを参照ください。

■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。本堂修復に伴い、一年間仮本堂(同朋会館二階)でのお勤めとなります。



どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【三月二十八日(金)】

午前十時 お勤め(御命日) 日中法要

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

栃倉 廣由氏 (第二十組 慈光寺)

◇今後の講師一覧

四月 渡邊 智龍氏 (第十八組 恩長寺)

五月 小林 智光氏 (第十二組 淨照寺)

六月 土屋 真氏 (第十五組 淨照寺)

■定例法話会のご案内

毎月十三日には、「両度の命日」と呼ばれている前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文の中で、この「両度の命日」についてお書きになられています(四帖目十二通)。

旧御堂にて開催してお

りました。改修工事に伴い、一年間仮本堂(同朋会館二階)での開催となります。皆様、お気軽にお越しください。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より(二時間程度)

◇場所 三条別院 仮本堂

※会場は変更になる場合があります

二月～四月

藤波龍英氏(第十八組 西入寺)

五月～七月

井上 正氏(第十組 受徳寺)

■別院声明教室のご案内

今年の別院声明教室が二月より始まりました。毎日のお勤めを学びたい方、これから得度を受けられる方、研鑽を積みたい方、是非一緒に学びましょう。



【中富正純氏】



【藤波龍英氏】

- ◇開催日 三月十九日(水)、四月十六日(水)、五月二十一日(水)六月十八日(水)
 - ◇時 間 午後六時より午後八時まで
 - ◇会 場 教区同朋会館(三条別院内)
 - ◇講習内容 正信偈 草四句目下 念仏讚 淘三
 - ◇講 師 中富正純氏(第二十三組 福照寺)
 - ◇持ち物 『真宗大谷派勤行集』または『大谷聲明集 上』、念珠、筆記具
 - ◇参加費 五〇〇円/回
- 参加希望の方は当別院までご連絡ください。

別院書道教室のご案内

- 書道教室受講生を追加募集いたしますので、ご希望の方は是非ご連絡ください。
- ◇開催日 毎月二回(第二、第四水曜日)
 - ◇時 間 午後六時三十分〜八時
 - ◇講 師 木原 光威氏(新潟県書道協会理事)
 - ◇持ち物 筆(大・小)、硯、下敷、文鎮、墨液、半紙、新聞紙
 - ◇月 謝 二五〇〇円(テキスト代含む)

別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、(ご要望等)ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方(団体)の、冥加金は左記のとおりです。

- ◎冥加金
- ・日帰り 一、五〇〇円
 - ・一泊二日 二、五〇〇円
- ◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)
- ・朝食代 五〇〇円
 - ・昼食代 一、〇〇〇円程度
 - ・夕食代 一、三〇〇円程度

同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記帳してください。その後、シートクリーニング代五〇〇円とシーツを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より仮本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどこしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただく縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に

合わせますので、お気軽にご相談させていただきます。

※現在、宗祖真向御影巡回を行っております。ご希望の場合は組長経由で、ご相談ください。

三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいますよう、ご案内申し上げます。お問い合わせは三条別院まで。

編集後記

先日、本町の商店街にて「別院さん、この前テレビ見たわよ」と話しかけてくれた方がいらつしやう。鎚起銅器で有名な玉川堂さんの協力で作られる、御遠忌を周知する銅製の駒札についての番組を見ていただいたようだ。駒札という法要を伝える広報手段を広報するというのは少しおかしな状況だが、時代の変化に伴い、私たちの受け取る情報の形が変化したともいえるだろう。変化の中にも、先人の歴史がそこに息つき、また、伝統の技を使った駒札が立てられるのは非常に楽しみなものである。この駒札が立てられるのは今年の五月になる。様々な方に見ていただきたい。